

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定批准書交換式

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43575

マイヤ、駐日大使挨拶

7210R

一九七二年三月十五日

沖縄返還協定批准書交換式における

マイヤト駐日米大使のあいさつ

戦争の結果取得した領土々平和の裡に
返還するとうる名譽を授けたいは、けんとごあ
りません。本日ここは、琉球諸島を日本へ返
還するための条約の批准書を日本政府の閣僚者

USIS

〇〇〇〇〇〇

と交換し、この交換を確証する議定書に署名
いたしましたことは、私のこゝろもなつて光栄
とするところであります。

九カ月前、私を呼びここに、他の人々のワ
シントンに集まり、沖縄返還協定に調印しま
した。その際、ニクソン大統領は、「本協定
は、その重要性のゆゑに、助言の同意を求め
るため上院に提出されることになつており、
私は、上院に対し、かかる助言の同意を要請
するつもりである」と申しました。

USIS

〇〇〇〇〇〇

13
米國が本日ここに寄託する批准書は、上院外交委員会の全会一致の表決によつて表明され、上院本会議で大多数によつて承認される。よつて、一九七二年五月十五日における日本への沖繩返還にアメリカ国民が心から賛成してゐることを示すものであります。
沖繩は、^{日本}西國間の長い、悲劇的な戦争の終末に米國の施政権の下に置かれたのですが、西國は、自然、歴史、地理的位置からいつても最善の隣人であるべきであります。

USIS

14
戦後、日米兩國は、この間々、~~沖繩の~~知~~的~~記録破りの貿易、~~知~~多様な~~的~~交渉を遂行してまいりました。米國が保持し使用することを許される土地または施設、日本が入手する土地および施設など、返還のため詳細な取り決めをなすに必要の申し上げは必要のないと思つておりました。この申し上げは、すべて公の記録に載つてゐることでありませぬ。

USIS

本日、この下銘記に在りたることは、
は、協力し協調する二国がいかんたる業績
を達成するに及ぶことである。協力は
と協調は戦争の終結を意味するに非ざらず、
より重要なことは、それが世界平和への踏
み石を固めるの間に纏まらぬこと、願望を
意味します。

日本とアメリカは、この一歩を固く
くこころを固くし、中絶政権の日本への
返還によつて、わたくし^{兩國}の意欲の完全

U S I S

な、^{兩國}の心と心として協力し協調す
ることからなるはななりません。わたくし
兩國は、^{兩國}の間に個別的にも大い
に努力をしますが、協力して協力し、
は、^{兩國}がより多くの成果をあげることから
このとおりです。
わたくし^{兩國}は、^{兩國}の平和という目標に向か
て協力し、また協力していくものと、私は
も確信します。兩國民を信じて、^{兩國}の
神、^{兩國}の口、才能を信じて、わたくし

U S I S

わたくしは、緊密に協力し、わたくし共の運命に向
かっつ進むことがございます。

沖繩の返還は、沖繩と日本の子孫へのかわ
つわりの約束、すなわち沖繩に課する潜在的
権は日本に属するといふ約束を履行する行為
であります。ニクソン大統領も、「沖繩施政
権の日本への返還は、戦後の~~歴史~~わたくし
の極東政策の最も重要な業績の一つである」
と述べております。

わたくしは、緊密と相互の利益をいふ共通

USIS

の基盤に立って、わたくし共を月々、貴国の
努力を押し進めることが出来ます。

(政府)

「わたくしは、私は、アメリカ合衆国を
代表して日本政府との間に批准書交換し、

ここにわたくしの子孫を、わたくしに沖繩と日
本の子孫をいかに守り、合衆国国民を代表し
て幸福な再統一をわたくし共の多幸をお祈り
申し上げることが出来ることを、光栄とする

ものでもあります。

USIS

722R

一九七二年三月十五日

沖縄返還協定批准書交換式における

マイヤト駐日米大使のあいさつ

戦況の結果、~~戦況~~ 領土々平和の裡

返還するところ、~~戦況~~ 領土々平和の裡

りません。本日ここは、~~戦況~~ 領土々平和の裡

還するための条約の批准書と日本政府の関係者

協定

U.S.S.

と交換し、この交換を確認する条約書に署名
いたしましたことは、私のこゝろ上もなつて先示
とするところであります。

九カ月前、私たちがこの場所、他の人々の

シントンの集まり、沖縄返還協定に非難した

しん。その際、ニクソン大統領は、「本協定

は、その重要性のゆえに、助言と同意を求め

るため上院に提出されることになつております。

私に、上院に対し、かかる助言と同意を要請
するつもりが、ありません。

U.S.S.

米国が本日ここに **おすめた** 批准書は、上院
 外交委員会の全会一致の表決によつて表明さ
 れ、また上院本会が大多数の支持を以て承認され
 ことには示されてい
 ように、一九七二年五月十五日に **沖繩返還** 日本
 への **返還** 返還 **返還** アメリカ国民が心から賛成し
 てゐること **板** 板 **板** のありませう。
 沖繩は、**白米** 西国間ツ長ツ、悲劇的な戦争の終
 末、米国の施政権の下に置かれた **ありませう**、
 西国は、自然、歴史、地理的位置が、**ありませう**
 最善の隣人であるべきであり、**ありませう**

U S I S

(4) 戦後、日米両国はこのこと、**知的な**
 記録破りの貿易、**知的な** 多様な **知的な**
 事柄が増大する両国間の親交客の往来によ
 つて立証してまゝした。
 米国が **使用** 使用 **使用** 使用 **使用** 使用 **使用**
 米領 **日本** **日本** **日本** **日本** **日本** **日本**
 各地、返還するもの詳細な取り決めにつ
 改め、申し上げる必要はない **残** **残**
 此の事柄は、すべし **残** **残** **残** **残**
 ることである。

U S I S

留書(五)

本日、二二二下
協和と調和の間に活動する
協和は二国が
協和は二国が

互に譲りあふことにより、
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

U.S.S.R.

協和と調和の間に
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

協和は二国が
協和は二国が

U.S.S.R.

このように、~~日本に在る~~ ~~協力を~~ ~~ながら~~ ~~交通の~~ ~~目標~~ ~~に向~~
かいつつ進む ~~の~~ ~~あり~~ ~~ます。~~

沖繩の返還は、沖繩と日本のみならず、
そのほかの領土、すなわち沖繩に在る潜在主権は日本に属するといふ約束を履行する行為
であります。ニクソン大統領も、沖繩行政
権の日本への返還は、戦後の ~~い~~ ~~わ~~ ~~れ~~ ~~ぬ~~
の極東政策の最も重要な業績の一つである
と述べています。

われわれは、~~懸念~~と相互の利益とより交通

U.S.S.R

の基礎盤に立って、~~北~~ ~~東~~ ~~亜~~ ~~和~~ ~~平~~ ~~を~~ ~~促~~ ~~す~~ ~~の~~
努力を ~~強~~ ~~く~~ ~~推~~ ~~進~~ ~~す~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~が~~ ~~つ~~ ~~ま~~ ~~す~~。

一七が、いまして、~~飛~~ ~~ば~~ ~~ら~~ ~~ず~~ ~~に~~ ~~合~~ ~~衆~~ ~~院~~ ~~を~~
代表して日本政府との間に批准書と交換し、
このいおほいのみをえま、なごむに沖繩と日
本のみならず、~~米~~ ~~軍~~ ~~に~~ ~~対~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~も~~ ~~米~~ ~~軍~~ ~~の~~ ~~撤~~ ~~去~~ ~~を~~ ~~促~~ ~~す~~
~~表~~ ~~の~~ ~~新~~ ~~意~~ ~~が~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~を~~ ~~示~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~く~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~。

U.S.S.R

一九七二年三月十五日

沖繩返還協定批准書交換式における
マイヤー駐日米大使のあいさつ

戦争で得た領土を平和裡に返還するという光榮を有する国は史上まれであります。本日ここに、沖繩を日本へ返還するための協定の批准書を日本政府の關係者と交換し、この交換を確認する調書に署名いたしましたことは、私のこの上もない光榮とするところであります。

九カ月前、私たちはこの場所に、他の人々はワシントンにそれぞれ集まり、沖繩返還協定に署名いたしました。その際、ニクソン大統領は、「本協定は、その重要性のゆえに、助言と同意を求めらるため上院に提出されることになっております。私は、上院に対し、かかる助言と同意を要請するつもりであります。」と述べられました。

米国が本日ことにおさめた批准書は、上院外交委員会の全会一致の表決によつて表明され、また、上院本会議で大多数の支持をえて承認されたことに示されているように、一九七二年五月十五日に沖繩を日本に返還することに対しアメリカ国民が心から賛成していることを反映するものであります。

沖繩は、日米両国間の長い、悲劇的な戦争の末、米国の施政権の下に置かれたのであります。両国は、自然、歴史、地理的位置からいって、最善の隣人であるべきであり、戦後、日米両国は、このことを、記録破りの貿易、多様な知的交流、ますます増大する両国間の観光客の往来によつて立証してきました。

米国が使用するため保持することを許される施設区域、日本側が取得する設備、用地など、返還のための詳細な取り決めについては、改めて申し上げる必要はないのですが、これらは、すべて記録に残されていることでもあります。

本日、ここで留意すべきは、協調と調和のうちに活動する二国が現実にかに多くを達成できるかということであります。協調と調和は単に戦争の終結を意味するものではありません。もつと重要なことは、それが世界平和への足場を国々の間に築きたいという願望をも意味することであります。

日本と米國は、これを成し遂げました。沖繩の日本の施政下への復帰によつて、われわれ両国は真の意味での完全かつ、対等のパートナーとして協調と調和のうちに活動することとなりましょう。われわれ両国はそれぞれ発展途上諸國への援助の面で多くをなしとげることが出来ます。しかし、両國が一緒になれば一層多くの成果をあげることが出来ます。

われわれ両國は、世界平和という目標に向かつて協力しうるものであり、また協力していくものと、私は確信します。両國の國

3

民を結集して、両國の原材料、技術そして才能を結集して、われわれは、より緊密な關係に立ちながら共通の目標に向かつて進むのであります。

沖繩返還は、沖繩と日本のみなさまへのかねてからの約束、すなわち沖繩に対する潜在主権は日本に属するという約束を表現するものであります。ニクソン大統領も、「沖繩に対する施政權の日本への返還は、戦後のわれわれの極東政策の最も重要な業績の一つである」と述べています。

われわれは、繁栄と相互の利益という共通の基盤に立つて、世界平和に向つて、共通の努力を強く推進することが出来ます。したがいました、合衆國政府を代表して日本政府との間に批准書を交換し、ここにお集りのみなさま、ならびに沖繩と日本のみなさまに対し、米國國民を代表して再び一本の絆につながれる皆様の将来が幸福なものであることを衷心祈念することを、喜びとするのであります。

4

TEXT OF REMARKS OF UNITED STATES AMBASSADOR ARMIN H. MEYER
ON THE OCCASION OF THE EXCHANGE OF INSTRUMENTS OF RATIFICATION
OF THE OKINAWA REVERSION AGREEMENT
MARCH 15, 1972.

To few nations falls the honor of peacefully returning territories acquired as a result of hostilities. It has been my happy privilege today to have exchanged with members of the Japanese Government instruments of ratification of a treaty to return the Ryukyu Islands to Japan and to have signed a protocol affirming this exchange.

Nine months ago we assembled in this place, and others gathered in Washington, to sign the Okinawa Reversion Agreement. On that occasion, President Nixon said: "Because of the importance of this Agreement, it will be submitted to the Senate for its advice and consent. I will urge the Senate to give its advice and consent."

The instrument of ratification which the United States deposits here this day reflects the hearty approval of the American people, as voiced by the unanimous vote of the Senate Foreign Relations Committee; as approved by a large majority of the elected representatives of all Americans in the Senate of the United States, of reversion of Okinawa to Japan on May 15, 1972.

Okinawa came under American administrative control at the end of a long, and tragic war between two nations which by nature, history and geographic positioning should have been the best of neighbors. Since

the war, we have proved this by our record-shattering trade in material goods; by the multiplicity of our intellectual exchanges; and by our ever-burgeoning growth in two-way tourism.

It is needless to recite the detailed arrangements for reversion: the lands or facilities which the United States will be permitted to retain for use; or the lands and facilities which Japan will obtain. These are all matters of public record.

What should be noted here today is the reality of the heights to which two nations acting in concert and harmony can achieve. Concert and harmony mean not merely an ending of war, but more importantly, a desire to build between nations a stepstone toward a world of peace.

Japan and the United States have achieved this. With the return of Okinawa to Japanese administration we may act in concert and harmony as full and equal partners in the truest sense of these terms. Separately, we can achieve much in helping to build the developing nations of the world; together, we can achieve more.

We can, and I believe, we shall work together toward that goal of world peace. Combining the peoples; the raw materials; the technologies, the talents of our two nations, we shall come closer together and move toward a common destiny.

The reversion of Okinawa fulfills a longterm promise to the people

of Okinawa and Japan: that residual sovereignty of Okinawa belongs to Japan. To quote President Nixon, "I believe the return of Okinawa to Japanese administration will be one of the most important accomplishments of our postwar policy in the Far East."

In our common bases of prosperity and mutual interests we can move forward in our joint thrust toward a world of peace.

It is with pleasure, therefore, that I have exchanged the instruments of ratification on behalf of the United States Government with the Government of Japan and, on behalf of the people of the United States, to convey to all assembled here and to the people of Okinawa and Japan our best wishes for a happy, reunited future.

TEXT OF REMARKS OF UNITED STATES AMBASSADOR ARMIN H. MEYER
ON THE OCCASION OF THE EXCHANGE OF INSTRUMENTS OF RATIFICATION
OF THE OKINAWA REVERSION AGREEMENT
MARCH 15, 1972

To few nations falls the honor of peacefully returning territories acquired as a result of hostilities. It has been my happy privilege today to have exchanged with members of the Japanese Government instruments of ratification of a treaty to return the Ryukyu Islands to Japan and to have signed a protocol affirming this exchange.

Nine months ago we assembled in this place, and others gathered in Washington, to sign the Okinawa Reversion Agreement. On that occasion, President Nixon said: "Because of the importance of this Agreement, it will be submitted to the Senate for its advice and consent. I will urge the Senate to give its advice and consent."

The instrument of ratification which the United States deposits here this day reflects the hearty approval of the American people, as voiced by the unanimous vote of the Senate Foreign Relations Committee; as approved by a large majority of the elected representatives of all Americans in the Senate of the United States, of reversion of Okinawa to Japan on May 15, 1972.

Okinawa came under American administrative control at the end of a long, and tragic war between two nations which by nature, history and geographic positioning should have been the best of neighbors. Since

the war, we have proved this by our record-shattering trade in material goods; by the multiplicity of our intellectual exchanges; and by our ever-burgeoning growth in two-way tourism.

It is needless to recite the detailed arrangements for reversion: the lands or facilities which the United States will be permitted to retain for use; or the lands and facilities which Japan will obtain. These are all matters of public record.

What should be noted here today is the reality of the heights to which two nations acting in concert and harmony can achieve. Concert and harmony mean not merely an ending of war, but more importantly, a desire to build between nations a stepstone toward a world of peace.

Japan and the United States have achieved this. With the return of Okinawa to Japanese administration we may act in concert and harmony as full and equal partners in the truest sense of these terms. Separately, we can achieve much in helping to build the developing nations of the world; together, we can achieve more.

We can, and I believe, we shall work together toward that goal of world peace. Combining the peoples; the raw materials, the technologies, the talents of our two nations, we shall come closer together and move toward a common destiny.

The reversion of Okinawa fulfills a longterm promise to the people

of Okinawa and Japan: that residual sovereignty of Okinawa belongs to Japan. To quote President Nixon, "I believe the return of Okinawa to Japanese administration will be one of the most important accomplishments of our postwar policy in the Far East."

In our common bases of prosperity and mutual interests we can move forward in our joint thrust toward a world of peace.

It is with pleasure, therefore, that I have exchanged the instruments of ratification on behalf of the United States Government with the Government of Japan and, on behalf of the people of the United States, to convey to all assembled here and to the people of Okinawa and Japan our best wishes for a happy, reunited future.



U.S. INFORMATION SERVICE
PRESS AND PUBLICATIONS BRANCH

PRESS RELEASE

ニュース速報

CAUTION: ADVANCE TEXT FOR RELEASE 3 PM MARCH 15, 1972

TEXT OF REMARKS OF UNITED STATES AMBASSADOR ARMIN H. MEYER
ON THE OCCASION OF THE EXCHANGE OF INSTRUMENTS OF RATIFICATION
OF THE OKINAWA REVERSION AGREEMENT
MARCH 15, 1972

To few nations falls the honor of peacefully returning territories acquired as a result of hostilities. It has been my happy privilege today to have exchanged with members of the Japanese Government instruments of ratification of a treaty to return the Ryukyu Islands to Japan and to have signed a protocol affirming this exchange.

Nine months ago we assembled in this place, and others gathered in Washington, to sign the Okinawa Reversion Agreement. On that occasion, President Nixon said: "Because of the importance of this Agreement, it will be submitted to the Senate for its advice and consent. I will urge the Senate to give its advice and consent."

72-10R

米国外務省 広報文化局

AMERICAN EMBASSY-TOKYO

- 2 -

The instrument of ratification which the United States deposits here this day reflects the hearty approval of the American people, as voiced by the unanimous vote of the Senate Foreign Relations Committee; as approved by a large majority of the elected representatives of all Americans in the Senate of the United States, of reversion of Okinawa to Japan on May 15, 1972.

Okinawa came under American administrative control at the end of a long, and tragic war between two nations which by nature, history and geographic positioning should have been the best of neighbors. Since the war, we have proved this by our record-shattering trade in material goods; by the multiplicity of our intellectual exchanges; and by our ever-burgeoning growth in two-way tourism.

It is needless to recite the detailed arrangements for reversion: the lands of facilities which the United States will be permitted to retain for use; or the lands and facilities which Japan will obtain. These are all matters of public record.

What should be noted here today is the reality of the heights to which two nations acting in concert and harmony can achieve. Concert and harmony mean not merely an ending of war, but more importantly, a desire to build between nations a stepstone toward a world of peace.

Japan and the United States have achieved this. With the return of Okinawa to Japanese administration we may act in concert and harmony as full and equal partners in the truest sense of these terms. Separately, we can achieve much in helping to build the developing nations of the world; together, we can achieve more.

We can, and I believe, we shall work together toward that goal of world peace. Combining the peoples; the raw materials, the technologies, the talents of our two nations, we shall come closer together and move toward a common destiny.

The reversion of Okinawa fulfills a longterm promise to the people of Okinawa and Japan: that residual sovereignty of Okinawa belongs to Japan. To quote President Nixon, "I believe the return of Okinawa to Japanese administration will be one of the most important accomplishments of our postwar policy in the Far East."

In our common bases of prosperity and mutual interests we can move forward in our joint thrust toward a world of peace.

It is with pleasure, therefore, that I have exchanged the instruments of ratification on behalf of the United States Government with the Government of Japan and, on behalf of the people of the United States, to convey to all assembled here and to the people of Okinawa and Japan our best wishes for a happy, reunited future.



広報文化局・報道出版部

PRESS RELEASE

ニューズ速報

一九七二年三月十五日

沖繩返還協定批准書交換式における
マイヤー駐日米大使のあいさつ

戦争の結果取得した領土を平和のうちに返還するという光榮を有する国は、史上まれであります。本日ここに、琉球諸島を日本へ返還するための条約の批准書を日本政府の關係者と交換し、この交換を確認する議定書に署名いたしましたことは、私のこの上もない光榮とするところであります。

九カ月前、私たちはここに、他の人々はワシントンに集まり、沖繩返還協定に調印しました。その際、ニクソン大統領は、「本協定は、その重要性のゆえに、助言と同意を求めるため上院に提出されることになつており、私は、上院に対し、かかる助言と同意を要請するつもりである」と申しました。

米国が本日ここに寄託する批准書は、上院外交委員会の全会一致の表決によつて表明され、上院本会議で大多数によつて承認されたように、一九七二年五月十五日における日本への沖繩返還にアメリカ国民が心から賛成していることを示すものであります。

米 国 大 使 館 ・ 東 京 都 港 区 赤 坂 美 町 二 ・ 電 話 5 8 3 - 7 1 4 1 (代 表)

72-10R

沖繩は、日米両国間の長い、悲劇的な戦争の終末に米国の施政権の下に置かれたのですが、両国は、自然、歴史、地理的位置からいつて、最善の隣人であるべきでありまして、戦後、日米両国はこのことを、記録破りの貿易、多様な知的交流、ますます増大する両国間の観光客の往来によつて立証してきました。

米国が保持し使用することを許される土地または施設、日本が入手する土地および施設など、返還のための詳細な取り決めについて は、改めて申し上げる必要はないと思ひます。これらの事柄は、すべて公の記録に載つていることであります。

本日、ここで銘記しなければならぬことは、協力し協調する二国がいかに大きな業績を達成できるかという点であります。協定と協調は戦争の終結を意味するだけでなく、より重要なことは、それが世界平和への踏み石を国々の間に築きたいという願望をも意味 します。

日本とアメリカは、こうした踏み石を築くことに成功しました。沖繩施政権の日本への返還によつて、われわれ両国は真の意味での完全な、対等のパートナーとして協力し協調することができるようになりました。われわれ両国は発展途上諸国の開発に個別的にも大いに助力できますが、協力して助力した場合には、より多くの成果をあげることができるのであります。

われわれ両国は、世界平和という目標に向かつて協力を、また協力していくものと、私は確信します。両国民を結集して一一両国の原材料、テクノロジー、才能を結集して一一われわれは、より緊密に協力しながら共通の運命に向かつて進むことができます。

沖繩の返還は、沖繩と日本のみなさまへのかねてからの約束、すなわち沖繩に対する潜在主権は日本に属するという約束を履行する行為であります。ニクソン大統領も、「沖繩施政権の日本への返還は、戦後のわれわれの極東政策の最も重要な業績の一つである」と述べています。

われわれは、繁栄と相互の利益という共通の基盤に立つて、世界平和を目ざす共同の努力を押し進めることができます。

したがって、私は、アメリカ合衆国政府を代表して日本政府との間に批准書を交換し、ここにお集まりのみなさま、ならびに沖繩と日本のみなさまに対して、合衆国国民を代表して幸福な再統一された将来のご多幸をお祈り申し上げることができることを、光栄とするものであります。